

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月31日

提出区分	実績	整理番号	4	課題区分	C		
横断的な課題	木曾らしさを活かした観光振興						
地域重点政策	「木曾らしさ」を活かした地域づくり 観光地域づくり					木曾地域振興局	
実施機関	木曾地域振興局			担当課	所属	木曾農業農村支援センター	
事業名	木曾の伝統的食材PR事業				電話	8-238-2343	
					E-mail	kiso-nosei@pref.nagano.lg.jp	
事業の概要	目的 (目指す姿)	コロナで落ち込んだ木曾の伝統食(木曾牛、そば、すんき)をPRすることで、木曾の魅力を発信するとともに、郡内道の駅等の伝統食材取扱店舗への誘客を促進し経営を安定させ、ひいては地域活性化につなげていく。					
	現状と課題	<p><b>1現状</b>          ・ここ数年は、新型コロナウイルスの影響等により、木曾地域の観光入込客数はコロナ前に比べて大きく落ち込んでおり、これに比例して木曾地域の伝統的食材である木曾牛、そば、すんきの販売数も伸び悩んでいる状況である。</p> <p><b>2課題</b>          ・ウィズコロナ、アフターコロナを考慮し、木曾ならではの食を今一度PRして、これを材料に木曾地域へ人を呼び込む施策を講じ、飲食店、宿泊施設等を活性化させるなど、地域を明るくする取組が必要である。</p>					
内容 (変更後の内容)	概要	<p>○地域住民に伝統食に親しんでもらい購入の促進を図るとともに、観光客に対してできるだけ多くの店舗を訪れて食事や買い物などをしてもらうため、木曾の特産品プレゼント付きのスタンプラリーを実施する。</p> <p>○木曾に多くの観光客が訪れる秋以降をメインに、新そば、すんきの収穫時期である10月1日から令和5年1月31までを実施時期とした。</p> <p><b>1スタンプラリー実施方法</b></p> <p>(1)参加店の条件          木曾牛、木曾産そば、すんき(パッケージ)のいずれかを扱う店</p> <p>(2)スタンプ収集方法及び条件          ア 参加店の特定メニュー(店ごとに決定)を食べた又は購入した際、スタンプを台紙への手押しをする。          イ スタンプは1店舗あたり1個(複数メニューを食べた又は購入しても1個のみ)を押印。          2個のスタンプを集め、必要事項(アンケート含む)を入力の上、各店舗の会計レジ横に常設した応募ポストに投函する。</p> <p>(3)特産品のプレゼント          応募者から抽選で計91名に木曾の特産品(木曾牛、木曾産そば、すんきを含む)を贈呈する。</p> <p>(4)アンケートの実施          応募者にアンケート調査を実施し、木曾の魅力に関する情報を得て今後の誘客の参考とする。</p> <p><b>2PR活動</b>          スタンプラリーイベントのポスター、チラシ、のぼり旗及びホームページ掲載に合わせ、木曾の魅力のPRを行う。</p> <p>〈変更内容〉          ・仕様書の内容が変更となり、委託業務の一部を農業農村支援センターで実施することになった。          ・イベント説明会開催通知等の発送業務(役務費)          60通(業者数)×84円(郵送代)×2回=10,080円</p>					
		事業期間	令和4年8月		～	令和5年3月	
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	木曾地域特産品取扱店への誘客	外部委託 1 チラシ・ポスター作成 2 のぼり旗作成 3 人件費等 4 梱包材 5 スタンプ	979,000	外部委託費 979,000円			
		説明会等の通知発送	4,424	郵送代 4,424円 (84円×46枚、140円×4枚)			
合計		983,424					
達成指標状況及び	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	スタンプラリー参加店舗数(木曾牛、そば、すんき店舗)		50店	32店舗	○ 達成 ○ 一部達成		
	スタンプラリー応募者数		2,000人	300人	● 未達成		
事業実績	<p>ア コロナの第7波と第8波の影響をもろに受け、観光入込客数や人の動きが鈍く、参加店舗数は32店舗、応募者は300名に留まるなど、目標値に達しなかった。スタンプラリー応募者では、長野県以外の都道府県も多く見受けられた。内訳は19都道府県(長野県118名、愛知県60名、岐阜県29名、東京都12名、神奈川県10名、茨城県8名、三重県5名、12府県30名)</p> <p>イ 木曾郡内は長野県全体の118名中46名であり、過半数が木曾郡以外の応募者があった。</p> <p>→上記ア、イより、郡外の応募者が多いことから、広く伝統食材を認知してもらえきかけ作りとなった。</p> <p>ウ 応募者の内、9割が「満足」「やや満足」との回答があり、「不満」「やや不満」はなかった。</p> <p>エ 応募者の多くは、各店舗で食べた伝統食材に対する評価が「おいしい」「また食べてみたい」等、多く寄せられ、非常に好感度が高かった。</p>						
今後の方向性	木曾の伝統食材のPRを引き続き行い、知名度を向上させていく。スタンプラリー以外の方法としては各協議会における活動も視野に入れて検討していく必要がある。						